

令和5年度 東京都内湾水生生物調査 5月鳥類調査 速報

●実施状況

令和5年5月16日に鳥類調査を実施した。天候は晴れで、気温22.0～25.7℃、北風、風速1.0～4.0m/secであった。調査当日は中潮で、干潮が8時53分(56cm)、満潮は14時58分(164cm)であった(気象庁のデータ)。各地点の概況を下表に示す。

	葛西人工渚(東なぎさ)	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
作業時刻	10:12-11:54	08:34-09:26	12:34-13:45
天候	晴	晴	晴
気温(℃)	22.8	22.0	25.7
風向	北	北	北
風速(m/sec)	4.0	3.2	1.0
備考	干潟は広く干出。ヨシ原ではオオヨシキリが囀っていた。	作業船の往来が多かった。	波が高く、うねりが大きかった。観光船の往来が多い。海浜公園側で海浜清掃が行われていた。

●主な出現種等

	葛西人工渚(東なぎさ) ※沖合含む	森ヶ崎の鼻	お台場海浜公園
数が多かった 鳥類上位2種	ウミネコ(457羽) カワウ(367羽)	カワウ(82羽) コサギ(15羽)	カワウ(1981羽) キョウジョシギ(72羽)
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・シロチドリ、オオソリハシギ、ハマシギ、オオセグロカモメ、ミサゴ等、重要種として20種を確認。 ・12種のシギ・チドリ類が確認され、ほとんどの種が干潟で採餌。 ・干潟の汀線付近でカワウとウミネコ、ユリカモメの群れが休息。 ・干潟や水たまり、浅瀬でサギ類が採餌。 ・スズガモとカンムリカイツブリが少数残っていた。 ・沖合でカワウとウミネコ、ミサゴを確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コアジサシ等、重要種として8種を確認。 ・5種のシギ・チドリ類が主に護岸で確認された。干潟を利用したのはコチドリ1羽のみだった。 ・干潟でカワウとアオサギが休息、汀線から浅瀬でコサギとダイサギが採餌。 ・コアジサシは上空を飛ぶ3羽が確認されたのみ。森ヶ崎水再生センター屋上での営巣はまだ始まっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハマシギ等、重要種として9種を確認。 ・第六台場と鳥の島でカワウが営巣中。巣数は第六台場310巣、鳥の島69巣で合計379巣。巣内に雛が見られたほか、営巣地や岩礁で幼鳥を確認。個体数は合計1981羽。 ・サギ類はアオサギとダイサギ、コサギの3種で、営巣は確認されなかった。ただし、ダイサギは繰り返し枝を運ぶのが観察された。 ・6種のシギ・チドリ類が鳥の島とお台場海浜公園で確認された。メリケンキアシシギは本調査で初記録。

●出現種と個体数

No.	目	科	種名	豊西人工渚(東なぎさ)				令和5年 5月				重要種 選定基準			
				森ヶ崎の鼻		お台場海浜公園		文化財 保護法	種の 保存法	環境省*2 RL2020	東京都*3 RL2020 (区部)				
				範囲 内	沖合 合計	第六 台場	鳥 の 島					公園 側	合計		
1	カモ		カルガモ	2	2	11	5								
2			スズガモ	3	3		3								留
3	カイツブリ		カンムリカイツブリ	2	2										留
4	カツオドリ		カワウ	353	14	82	705	2	1274	2	1981				
5			ウミウ	1	1										
6	ペリカン		アオサギ	4	4	5	3		12	3	15				
7			ダイサギ	12	12	1			1		1				NT
8			コサギ	7	7	15	1		5		6				VU
9	チドリ		ダイゼン	1	1										VU
10			コチドリ			3									CR
11			シロチドリ	3	3										CR
12			オオソリハシギ	2	2										VU
13			チュウシャクシギ	18	18	2				3	3				EN
14			アオアシギ	3	3										VU
15			キアシギ	15	15	2				11	2	13			NT
16			メリケンキアシギ							1					VU
17			ソリハシギ	2	2										VU
18			イソシギ	6	6	2				2		2			VU
19			キョウジョシギ	15	15	11				59	13	72			VU
20			ミユビシギ	2	2										EN
21			トウネン	9	9										VU
22			ハマシギ	11	11					1		1			VU
23		カモメ	ユリカモメ	20	20										
24			ウミネコ	456	1	457									留
25			オオセグロカモメ	3	3										NT
26			コアジサシ			3									VU
27	タカ		ミサゴ		1										EN
28			トビ	2	2					5		5			EN
29	スズメ		ハクセキレイ	1	1	2				1		1			NT
				25 種 3 種 26 種	12 種	6 種 11 種 3 種 14 種	0 種	0 種	6 種	21 種					
				計7目10科29種											

※種の分類・配列は「日本鳥類目録 改訂第7版」(日本鳥学会, 2012)に従った。

*1 文化財保護法：特天=特別天然記念物

*2 種の保存法：国際=国際希少野生動物植物種、国内=国内希少野生動物植物種

*3 環境省レッドリスト2020：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧I B類、VU=絶滅危惧II類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足

*4 東京都レッドリスト(区部)2020年版：CR=絶滅危惧IA類、EN=絶滅危惧I B類、VU=絶滅危惧II類、NT=準絶滅危惧、DD=情報不足、留=留意種

<葛西人工渚(東なぎさ)>

○調査地点の状況

干潟は広く干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

12種のシギ・チドリ類が干潟で採餌していた。確認種はすべて東京都レッドリストに掲載されており、加えて環境省レッドリストでシロチドリとオオソリハシシギが絶滅危惧Ⅱ類(VU)に、ハマシギが準絶滅危惧(NT)に指定されている。



○出現種(スズガモ、カンムリカイツブリ)

主に冬鳥だが春以降も少数残ることがある。今回の調査では上空を飛ぶスズガモ3羽と海上を泳ぐカンムリカイツブリ2羽が確認された。2種とも東京都レッドリストで留意種に指定されている。



○干潟利用状況

干潟でカワウ、ユリカモメ、ウミネコの群れとオオセグロカモメが休息していた。汀線付近や水たまりではサギ類やシギ・チドリ類が採餌していた。



<森ヶ崎の鼻>

○調査地点の状況

最大干潮時刻で、干潟が広く干出していた。



○出現種(シギ・チドリ類)

5種のシギ・チドリ類が主に護岸で確認された。干潟を利用していたのはコチドリ1羽のみであった。確認種はすべて東京都レッドリストに掲載されており、コチドリは絶滅危惧ⅠA類(CR)、チュウシャクシギ、キアシシギ、イソシギ、キョウジョシギは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に指定されている。



○出現種(コアジサシ)

コアジサシは上空を飛ぶ3羽が確認された。NPO法人リトルターン・プロジェクトによれば5月6日に森ヶ崎の鼻で150羽以上のコアジサシが確認されているが、5月14日は24羽で営巣は始まっていない。

<https://littletern.hatenablog.com/entry/2023/05/06/194705>



○干潟利用状況

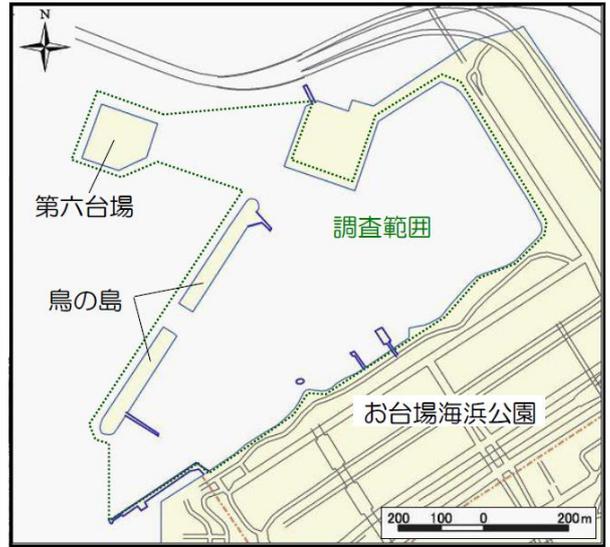
カワウとアオサギの群れが干潟で休息、コサギとダイサギが汀線から浅瀬で採餌していた。



<お台場海浜公園>

○調査地点の状況

第六台場・鳥の島ではカワウの営巣が続いている。



○出現種(カワウ)

第六台場で 310 巣、鳥の島で 69 巣、合計 379 巣が確認された。巣内には大きく育った雛が見られ、第六台場の護岸や樹林、鳥の島で幼鳥が多く見られた。



○出現種(サギ類)

アオサギ、ダイサギ、コサギの 3 種が確認されたが、営巣は見られなかった。第六台場でダイサギ 1 羽がカワウの古巣に繰り返し飛来し、枝をくわえて飛び去る様子が観察された。



○出現種(シギ・チドリ類)

鳥の島とお台場海浜公園で 6 種のシギ・チドリ類が確認された。個体数はキョウジョシギ 72 羽、キアシシギ 13 羽などで、本調査地としては種数・個体数ともに多かった。メリケンキアシシギは、本調査では初記録。



<その他>

○ウミネコの繁殖

砂町運河では構造物やその周辺でウミネコの成鳥 68 羽が確認され、そのうち 24 羽が営巢中と考えられた。京葉線の高架では少なくとも 3 巣が確認された。いずれも雛は見られず、抱卵中と推測された。

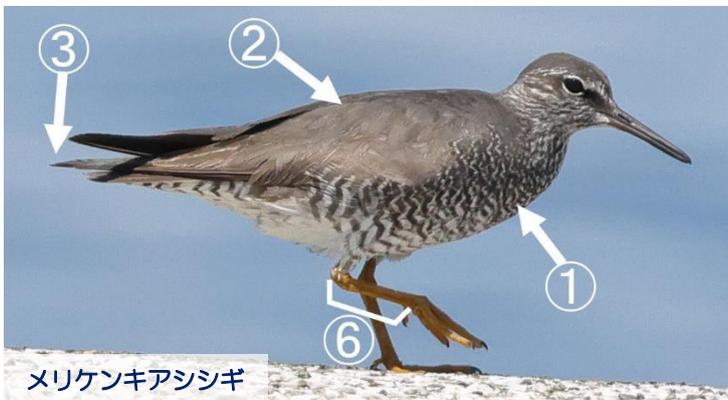
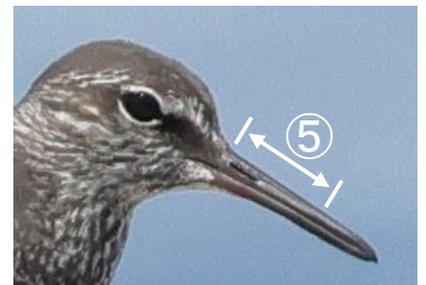


<トピックス>

-メリケンキアシシギの初記録-

本種は数少ない旅鳥として主に太平洋側の海岸部に飛来する。東京湾でも記録されるが個体数は少ない。よく似たキアシシギとは、主に以下の点で区別できる^{1,2}。お台場海浜公園で確認された個体は、鼻孔と跗蹠^{ふしよ}については距離があつたため確認が困難だったが、他の特徴についてはすべて合致した。

- ①夏羽は体下面に太く密な横斑があり、腹中央から下尾筒にも横斑が入る
- ②体上面はより暗色
- ③初列風切は尾羽より長く突き出る傾向
- ④鳴き声は“ピリリリリ”(キアシシギは“ピューイー”)
- ⑤嘴の鼻孔から続く溝は、嘴の 2/3 程度(キアシシギは 1/2 程度)
- ⑥跗蹠^{ふしよ}後面の模様は網目状(キアシシギは梯子状)



¹ 氏原巨雄・氏原道昭, 2004. シギ・チドリ類ハンドブック. 文一総合出版, 東京.

² 真木広造・大西敏一・五百澤日丸, 2014. 決定版日本の野鳥 650. 平凡社, 東京.